

西關大學學報

第四百十四號

昭和十一年六月



西關大學學報發行局



員查審會陽春
筆伯畫兒青海鳥
刷色八版木

關西大學
立 五十年記念繪葉書

逓信省記念スタンプ捺印 三枚一組

頒 價 參 拾 錢

本學創立五十周年を記念する爲、春陽會の審査員鳥海青兒畫伯に依頼して記念繪葉書を作りました。木版畫入度刷で藝術的の香りの高いものであります。

筆者鳥海青兒氏の説明に「今日の我が關西大學―長き歴史に高き權威、重き使命と學徒が乗り出す社會―を古き日本の姿と船と海とによつて表徴したもので、萬斛の風を滿帆に孕み、文化の使命を大船に乗せて渺々たる大海に萬里の波濤を蹴つて理想の彼岸へ躍進せんとする狀を描いたもので、地圖の原本は西曆一六七四年支那に歸化した白國人南懷仁(Ferdinand Verbiest)の著した東洋最古の世界地圖「坤輿全圖」にとつたもので、現在京城帝國大學に保存されてゐる歴史的價値の高いものである」と

三枚一組にて千里山學會と天六學會の偉容を收め、各々切手を貼布し、記念祭當日千里山郵便局大學構内臨時出張所の逓信省記念スタンプ捺印附である。部數に限りあり至急申込まれたし。

大阪市東淀川區長柄中通二

頒布所 關西大學會計課

振替大阪二二八七五番



續浪華儒林傳

田中華城と金峰

講師 石濱純太郎

泊園の緒を承けたる田中華城金峰父子を紹介したい
兩人の本業は醫であるが、儒を兼ねてゐたのであるか
ら、こゝに傳しても肯て差支は無からうか。

田中氏は源家の六田氏で丹波の豪族であつたが、莊
次郎と云ふ人の時に京へ出て、田中氏に寄寓して遂に
之を肩す事となつた。小森氏の門に入り、それから醫
者を業とし、法橋に任せられ嘉庵と稱した。後大阪に
來り高麗橋三丁目に住んで大阪の人となつた。其子寶
臺は家を高麗橋から北久寶寺町四丁目へ移した。兄弟
三人共に法橋と爲つた。子の長門介顯輝、號は綺潮と
云ふが一時京へ出て神道を唱へたが、復歸阪して家業
を承けた。配は樋口亮庵の女。樋口氏は才女であつて
大鹽の亂に出會つたが、當時尙ほ壯健で、皆が危ない
から逃げようと勸めるを笑つて、「葭蘆をわけぬ大潮
が湧き立ちて、浪華浦邊に波さはぐなり」と和歌一首
を示したと云ふ。七十八の高齡で歿した。次男の輝美、
號は玉洲が後を承け、元高津の神官の後なる深江氏名
は益子を娶つて出來た男子が即ち華城である。深江氏
は手蹟がよく、又和歌を善くし、琴三味線に秀で、新

黒髪の曲を作つたと云ふ。老いても髪は黒く、喜壽を
祝つたんだから是れ亦長壽を保つたのである。

華城は名は顯美、字は君業、通稱は内記。早く父を
喪ひ、賢母深江氏の手にて育てられ、藤澤東咳先生に就
いて學問を習つた。年は若い、が非常な勉強家で、頻り
に奇説を吐いて同門を驚かした。漢學が大體出來上る
と母は又彼をして備前の難波抱節に就いて家業の醫を
學ばしめた。然し祖母樋口氏が非常に歸阪を待つもの
だから、二年弱で山陽南海地方を遊歴して歸り、堀江の
隱居所から祖母と母とを迎えて、再び北久寶寺町四丁
目傳馬町を東へ入る九軒目の舊居で家業を張つた。學
問が出来るものだから當時の醫學生は續々其門に入
り、名聲隆々たるものがあつた。然も詩文の才が有る
から益々名は高く、業暇には著述に従事した。所が嘉
永五年十一月十九日北隣りからの火事で全燒に遇ひ、
諸稿本皆灰燼に歸したが、「幸に猶ほ我神を存し我眼
を存し我腕力を存するから再び稿を起すに足る」と豪
語して著述にも従つたが、今度は幼時から神童の稱あ
る嫡男金峰が校正潤飾の功を爲し得る程になつてゐた

目次

續浪華儒林傳「田中華城と金峰」……………(一)

講師 石濱純太郎

シベリアン系譜物語……………(三)

教授 中村良之助

學内報……………(六)

追試驗施行—人事移動—武田眞英氏獎學
資金寄贈—關甲校長垂水氏辭任—協議員
大鐘氏逝去—かくほう抄

校友……………(七)

大阪支部—福岡支部—臺灣支部—大連支
部—新宮支部—大三會—六念會—神戸市
役所關大俱樂部—大阪遞信局KUS會—
千里山戌申會—三二會—衛慶會—動靜—
移動

學生……………(一六)

皇陵崇敬會—基督教青年會—新入生歡迎
會(專門部一部)

關大スポーツ……………(一七)

滿洲事情……………(一九)

校友 廣瀬義雄

焼け出された華城は備後町心齋橋東へ入る所に住し、次いで安土町の八幡様の向ひ側に移つた。この頃は既に開港攘夷の論など天下に騒然たる時であつたが、華城も通策十五篇を撰して島津順聖公に獻せんとしたが遂に果すを得なかつた。それにも増して遺憾なるは彼の愛子金峰が先つて多病の一生を終つた事であつた。

其後天下愈々多事で將軍大阪城に入つてからは江戸の侍醫、大藩の儒臣等華城の名聲を聞知せるもの往來の途に彼の紀律堂を訪ふもの多く、皆金峰の天逝を惜しみ深江氏の壽康を祝した。慶應二年には母深江氏の喜壽の賀筵を設けた。かくて明治に入つて文明開化が一世を風靡したが、華城は一意漢法を守つて移らず、散髮脫刀誇一新、舊來土俗罵因循、吾頭戴髻腰雙劍、不是文明開化人」の詩を以て氣概を示してゐた。明治十三年四月十三日に年五十五を以て病歿した。墓は阿倍野に在る。配は杉山氏、名は烈子、金峰を擧げた。

著はす所、「大阪繁昌詩後編」、「大阪新繁昌詩初編」、「日本復古詩」等が板本になつてゐるが、詩鈔、文鈔隨筆などは何處に存してゐるだらうか。又専門の醫書の著述も「溫度論集覽」等澤山稿は有つたらうに。

金峰は名は樂美、字は君安、金峰の號を以て行はれた。祖母深江氏は華城の西國遊學も其志を成さしむるを得なかつた事を遺憾として、午の日の祭日なる妙見様に禱つて金峰が生れた。それからあらぬ弘化元年の午の月の五月、午の日の十六日、その午の刻に生れたと云ふので通稱は右馬三郎であつた。幼時からおとなしい兒で、記憶力は強く、別に教へられない間から字引によつて獨りで本を讀んで行つた。何分にも弱體體質であつたから華城が勉學を勧めないにも關らず、絶

倫の記憶力は讀書の嗜好と相待つて、才學はグングン進み、十歳の正月には既に詩を作つてゐた。十四の時には父に代つて左傳を講じて杜注を疑つた。以後は醫書でも儒書でも屢々代講し、父の著述の校字にも従つた。容貌は白皙纖麗で女にも見まほしく、擧止は閑雅謙虛で文字も知らぬ振りであつたが、江戸十年遊學の老書生の問ひに答へて、本朝近世の大家は經の太田錦城、詩の菅茶山、史の頼山陽、文の齋藤拙堂だとか、西土近代の有用書は康熙字典、日知錄、經義考、二十二史劄記だとか云つて彼を驚倒せしめたんだから、天才獨學で成し上げた博覽と明識とは恐るべきものがある。父に志す所を問はれて、弱冠にして江戸に遊び、二十七で歸り京で門戸を張つて儒者となりたいと答へたが、然し汝は家業を繼がねばならんと云はれて、家業を繼いだら官府に訴へて醫學寮を建て、施藥堂を營み、授業の傍ら貧民活療に従事したいと答へたのだから、既に識見も平凡ではない。然し才子多病、生來の弱體體質は肺病を疾んで、祖母の命で父が能勢の妙見さんへ籠つた甲斐もなく、文久二年六月二十八日に年僅に十九で歿した。墓は西高津中寺町の妙壽寺に在る。

遺稿は「金匱要略正義」、「雜體詩」、「文」、「金字編」「漫錄」、「皇朝絶句類選」なども有るが、出版された「大阪繁昌詩」三卷は十分にその才學を示して天下の惜しむ所となつた。

華城は町の學醫であり、金峰は未完成の學童であつて、共に儒林傳中で別に之を上下する要はない。その詩文の才は驚くべきものもあるが、戯作に近いものが多いから特に論ずる事もない。然しその文才も子は父

に勝つてゐた様である。その人と爲り、その博覽、その明識、その文才、惜しいかな、天に之に壽を假さずして、好箇の町人學者を育成するに至らなかつた。傳記の作者をして、金峰死後田中門下の弟子多く散じたと歎せしめたのはほんとならう。たゞ金峰の授業は丁寧反覆溫和の氣眉宇に溢れ、華城の嚴律正人を教ふるに法有つた冬日夏日の塾中評のみがそうさせたわけではないだらう。

華城も尊王佐幕の攘夷説であるが、この深窓に生ひ育つた金峰もその衣鉢を承けてゐるが、多病の弱才子に似ぬ尙武論者であつた。我が日本は神國で且つ大に武威の土だから、萬々世一統の明天子を護し奉る事は、胡濶庵などの様に徒らに文墨を弄して激言するを知るのみの怯弱さはない、秦檜などは神速に頭を斬つて終う丈だ、大石良雄の義烈も四十六士を待つてやるなどは抑々下だと云ふ風である。親讓りの奇說癖も多少は交ちるが、白哲の病兒とは凡そ反對らしい言が多い所は興味がある。彼れ又幕末騷擾の時局に際し時勢の急轉を聞知してゐるんだが、現状維持の尊王攘夷で大阪の繁昌さへ落さないならば、天子は萬々歳、將軍は千々秋であると讃へてゐるのは、市井の民として無理からぬ事である。後から彼れ此れと批評する人があつたら、凡そ民の生活には無理解であらう。華城も同様であつたんだから、家庭にのみ生長して足一度も大阪を出でず、欲する所は得るを得た金峰としては當然である。

以上は「大阪訪碑錄」、「東畷先生文集」卷之七、「大阪繁昌詩」前後編、「大阪名家著述目録」に據つて綴り合せたものである。



シベリアン系譜物語

教授 中村良之助

シベリア經營の中心地、ノボ・シビリスの町はシベリアの野も東の果に近く所在してゐる。此處はモスコとハルビン間の略中央に在るので蘇聯政局も此モスコとの距離の克服に畢生の努力をつくしてゐる譯、急行列車一百時間^{II}の標語も反面にはかうした理由に基づく淋しい御自慢ではある。

然し此の町ノボ・シビリスは誠に極東、中亞侵寇の支點としては恰好の地點にある。シベリアの穀倉を控へ、クズバス鑛區に臨む此の地位へは、近年頗る人口が集中し、物資の運輸は輻輳しつゝあるのである。

▲モスコ——ノボ、シビリス間 三、四八八キロ
▲ノボ、シビリスク 人口……………約三十萬

新舊シベリア物語は此の町からはじまる。

ノボ、シビリスクから西南へ五百キロ。蒙古高原を限るサヤン、アルタイの大山脉の北麓の山邑コルチュギノ行きの列車にのる。ユルガ驛でシベリア本線に訣別すれば愈々車窓に入る風景が變る。雄大な大陸の山影を背景に其の麓に起伏する丘陵と緑林は、曠野の眺めに倦いたシベリア農民の目を先づ樂しませる。車内の人々、驛頭に立つ人々の容貌も追々に變化を加へて行く。大小ロシア人はもとより、キルギス、タタール、フィン族等と其の混血人、内陸住民の凡百の型を集めて、列車はひたすらに、アルタイ、サヤンの山をめぐりてクズバスの鑛野をはしるのである。

自由と富を求めてワラルを越えた祖先、夫れから數代の子孫のシベリア生活に

はもはや「母なるロシア」の追憶は失はれてゐようもの。内陸アジア民と彼等スラブ人との混住の結果は、全くシベリアンと化してゐようといふ。故にこそ、反露革命には誠にもつて恰好の人的對象である。これと共に沿線至る所に山積する石炭と鐵鑛、此處には又革命政府多年渴仰の資源がある。かくしてクズバスの地と人はひとへに近代シベリアの運命の懸る所である。今や勞農政府はワラルとクズバスを巡つて政權存亡の秘策をこらしてゐよう。回教徒に對するメツカとメヂナの如く、勞農宗徒にとつて西にワラルの聖地があり東にクズバスの本山がある。クズバスへの巡禮には將に「黒い石」にひざまづいて三拜九拜しつゝ、ケメロボ・スタリンスクの鑛業街を行脚する事であらう。シベリアの自然の極端に相應じてシベリアンには兩極の性狀を看取し得る。皚々たる霜雪の内に、サモワルをかこみ常夜をすごす冬の生活、草緑の芽を眺める暇も無く酷熱と砂塵が起る春夏の生活、シベリア農民の一生は此の自然の輪廻の内にはじまりそして終つたのであつた。

櫓の鈴の音に耳をすました昔に較べて、クレインヤ、汽罐の騒音こそ彼等には此人の世の音として、はじめて聞かれたであらう。聳立する煙突と工場の姿をこそ、遙かなる西歐の物質文化神の面影と想ひ、今彼等シベリアンは心からなる禮讚の教典を繰りつゝある。同じアジアにあつてもヒンヅー三億の民をひきゐて立つガンヂーの物質文明への唯心的闘争宗と果して何れが是か非か、とまれ此處で勞農宗クズバス派の縁起について物語らねばならない。

十七世紀も終り頃に、賤しき農奴の件としてニキタ・ヅミドフ(Nikita Demin)は孤々の音をあげた。長じてチュエーラの町に鍛冶屋を営んだが生來の聰明は遂にワラルクツバス鑛業の開祖として仰がるゝ身に迄出世したのである。鋤をつくるべき村の鍛冶屋は武器をつくりはじめた。折柄のスエーデン戦争の爲に、天晴ペーター大帝の御役に立ち、貴族に列せられるに至つた等、全く國こそかはれ、彼の獨逸のクルツプそのまゝである。ヅミドフ一家の内にはアナトル・ニコラエヴツチの如きサン・ドナドの公爵と稱され、ナポレオン一世の姪、マシールド・ボナバルドと婚姻をするものすらあつて、クズバス宗門の縁起は實に豪華なものであつた譯である。

儲、一六九九年ニキタの手によつて、ウラル山中最初の熔鑛爐に火が入ると共に、露帝はカノン砲はもとより武器の調製の御用と引かへに鑛夫農奴の支給を約束された。ウラル鑛業の祖業はかくして確固たるものがあつた。次いで、ニキタは其子アキンフイ・ニキチチをつれてウラルを去つて東の方、アルタイへと向つたのである。ヨハン・グムリンの旅行記に依れば此の「アルタイ行」は一七二六—七年の事でニキタの下にオビ河の上流の或地點に馴鹿を狩りに出た一農夫の手から原鑛の見本が到來した事にはじまる。

アルタイ山麓、オビの上流に到着した父子は此處のバルナの町に據つて鑛山開拓の一步を履み出した。現バルナウルの町はかくして其最初から鑛山と因縁をもつたのである。アキンフイは、コリバノ・ホスクレセンスク (Koljvano-Vokres-sensk) の町を建て更に、シユルビンスク銅山を開いて之等の鑛業作業の爲にわざわざウラル方面から鑛業労働者を呼びよせたのである。そして、鑛山生活の支持の爲に、銅山中心の四百以上の農場を開いて之への植民數を得て Industrial Set として、役立たしめたのである。

東歐には漸く封建制が地歩を固めつゝあつた際であるから其の風は自然此の地にも及んで今や彼は四百餘の農場地主として又鑛業奴隸と鑛山の把持者としてシベリアの一角に、一大植民地を現出し、宛然天王者たるの地位に上つたのである。

彼のエルマクに依るシベリヤ遠征は武力征服に止まり、相次いで來れるストロガノフも商業的倖才を認めるとは云へ、シベリア開拓史にとつては端緒的なるものとして、深く其の恩恵が後世にのこるものとは思へない。此の事に比して、此鑛業開拓と天れに附隨する農場制度の創立は實にシベリア植民の型の近代化せるものとして記念すべきであると共に、アキンフイの名はシベリア植民史上特記されるべきであらう。

同時に、天涯遙かなるシベリアの内陸に、日毎に土塊を相手の強制的労働をなせし彼等鑛夫の身を思ひ、山腹、谿間を拓いて耕蒔にいそしまねばならぬ農奴の心を偲べばシベリアの植民悲史は此の頃よりはじまつた事である。今にしても鑛山と鑛業にからまる幾多の悲惨事を聞く、沉んや、封建の昔、暗黒の地に於ける鑛業世界には幾多の呪咀を空しく、其の亡骸と共にあの世へ葬り去つた事であらう。否、彼が創案は其の後、時と共に益々援用されるに至つた。唯異郷の地に出

づるのみを以ても苦しみ常ならざるに、誰が好んでかゝる地位に働くべき。さればこそ、労働力の不足を補はんとして、犯罪、流滴の者に課して其の勞役を利せんとする工夫は益々熾になり、シベリア鐵道の開通迄實に二百年間のシベリア植民史は全く此「強制労働」をもつて飾られ、無辜の民に、恐怖の地と化せしむるに至つたのである。

今、勞農政府御自慢の列車に在つて窓外に眺むる鑛山街と鑛夫、彼等は果して「知新」に勇躍し、我世の春とこそ勞農主義を謳ひ得るや、「温故」が禁物の此國の慣ひとは云へ人の情けの常として、姿なき鐵鎖と無音の苔におびゆる時の無しや否や、はるばる異國に來れるエトランゼーには、彼等の心の奥は知れない。唯山野の形勢の變れるの事實は知られようとも。

アキンフイの死後、其の所有の土地と其の經營の一切は政府に歸し、アルタイ地方、オビ河の上流沿岸一帯は露帝室領となつた、ゾミドフ一家は秘かに銀山を稼行し、蓄富を高めつゝあつたと稱されるが眞疑の程は此處に書く要も無からうシベリアはセント・ペテルスブルグからは仲々に遠いのである。シベリアは此の意味で住民に自由の天地と考へられたが、其の曠漠さの故に、帝政官僚の私的の跋扈があつた。何れにしても「遠隔」と「不通」の罪である。一つや二つの銀山の有無等は問題しや無からうでは無いか。

未開の交通不便の所として、無頼の徒、異種族の襲來の記事は植民史の初期の常である。此のアキンフイ程の大規模さに於いても尙此の懸念があつたと見えて官兵の護衛の費用を負担してゐた事が記されてゐる。又其の鑛山街の創建にも此の留意が認められる。アキンフイの創めた植民地は山間にあつたが、それは防衛の爲に、四つの稜堡をもつた城砦であつて、尙其の周圍には溝渠が巡らされてゐた、此の城砦の中には指令者と鑛夫とが住居してゐて、南西の城壁の切目に、セトルメントが置かれ、夫れと反對の北東の側に鐵工場が設置されてあつた。そして之等の全設備の總體の外殻として、柵が設けられ防備の最前線としてあつたのである。規模や構造はもがシベリア平原の農民植民地にもかゝる型はあつた。西歐諸國の海外植民發展にも此の型は見出し得られる。だからこんな事は餘り珍しい事でも無からう。

此處で思ひ出す事は、南佛といふか、ビレネーの山麓にローマ當時からの城砦町が其の儘のこつてゐるといふ所を見た印象である。

ビレネーの北麓、美しい河流に沿ふて列車はカルカッソンスに着く。「朝起の農村にしても午前四時といへば少し早すぎる。ようやくに、開いたレストランを見つけて早速にとびこんで、コーヒとパンにありつく。主人は此の早朝の客、異人さんを見て一向に驚かない。「ローマ城砦見物には諸國の學者たちの來る事は稀で無い」と博物館長みたいな得意振りでもてなしてくれた事は今でも忘れ無い。南歐の田舎町を行く氣持は又格別なものである。窓々街並みを出はづれた時しも朝暈が初光をなげて、斷崖にかゝる石橋と對岸にそゝる城壁の映え、蒼蒼にしむ二千年の歴史の色を目のあたりに感じる心持。しばらく茫然と眺めたがやがて行きあふ農夫に、「ボンジュールムシュー」と挨拶されて、「思はずもお早う」と日本語が出た。しかし此の農夫には佛語に聞こえたであらうが。ほゝえみ乍ら去つて行つた。城壁を一廻りして木橋を渡つて大手にかゝる。「いざ戦ひ」となればこれをおとして人々はたてこもつたであらうか。砦の内側には立派な町並が揃つて、人々は共用の井戸への水汲みに出かけてゐる。番犬であらうか此の異國人を見かけても別に吠えようともしないで、先導してくれる。行きあふ人々は皆朝の「挨拶」に、「こやかな微笑を交はしてゐる。餘惠は此の異國人にも及んで全くの同志といふ心安さ。これが「戦時」であつたならと反對の時の事が心にうかんでくる。やがて、鋤や鍬をかついだ人も行きあふ様になる。籠ざげた乙女子も出てくる。「野良仕事へ出かける」此の風景は所こそ變はれ心持は東邦の君子國の夫れと全く同じである。武器庫、穀物倉、樓閣、弓矢の打物等、所、所、を得て西洋史の書中の人々が今にも示現しさうなまゝに迄城の形が完全に保存されてゐた。かつて此の城内の人々は、野良に出られる日こそ願はしけれ、一旦事あつた時は皆々手に手に武器をもつて敵に向ふべき如實に共同の世界にあつた譯である我國の武士、特に大名殿様を中心の城とくらべて、此處では全く市民—シトワイヤンといった大衆共が皆各自に責任を負ひあつたのであるが……等と既に書物によつて知つてゐる知識を今更の如くかみなほしたのであつた。

これは話が横道にそれて仕舞つた。本道に返へすとして、偕、アキンフイの植

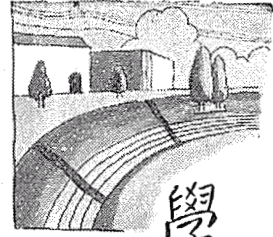
民城砦は、シベリアでも稀しく充分な計割と裝備にあつたものと思へる。しかし此事以上に書き残してはならない重要な事柄は此城砦植民の型式と共に、此鐵業植民經營の組織及鐵業操作上の分業制度である。

彼の工場は五つの重なる部門に分れてゐた。熔鑛爐の部、撰鑛、製煉、碎鑛の部、鍍錫、延銅の部、鞴による手工細工の部、製材並びに操炭工場が夫れで、製鐵熟練工はワラル地方、カタリナブルグ、ネビヤンスキー工場から派遣されたものがこれに當り、炭坑作業は主として近隣農夫がこれに當てられたのである。(農夫は此作用によつて、納税と賦役を果す便があつたのである。) 新開の村建的農業にとりまかれた大陸内地、全くの邊疆の山間に既にかくの如く、將來の大規模、鑛業の企業型を偲ばせる萌芽が完成されてゐた事は、近代鑛業文化の淵源を自負する西歐人にとつて、之を何と見るやら。又此の臨時工の爲に寄宿舎を設備し、廣く鑛山街の治安と異民族の來襲の爲に守衛兵を置いた等全く、立派な人民の自治都市であつた譯、現シベリアの自治だの人民だのいふ事も此時に由來したものが兎に角アキンフイの經營の才は稱讃すべきものである。(未完)

山岳部 (専門部一部)

昭和十一年度夏山プラン

- 第一班、常念、槍、穂高縦走(七月十一日より約一週間) 上高地より一俣小屋、常念岳、西岳、槍ヶ岳を経て穂高に至る途中、北鎌尾根、小槍にて岩登り練習をなす、歸阪七月十九、二十日頃、リーダー村上(商三) 費用—約參拾圓
- 第二班、穂高生活(約一週間)常念、槍、穂高縦走後、潤澤にてベースキャンプを張り、此處を根據地と
- 第三班、四國劍山、大歩危、小歩危縦走キャンプ(七月二十八日より約二週間)徳島より先づ劍山に至り、四國山脈を縦走して大歩危小歩危に至り、其處にて三日間滞在附近の岩登り練習、リーダー村上(商三) 費用—約貳拾圓
- 尙第三班は一般學生の参加を歓迎す、希望者は村上(商三)迄申込まれたし。



學内報

追試験施行

専門部一、二部 自四月二十一日 至同二十五日
 大學 豫科 自四月二十三日 至同三十日
 學部 自六月八日 至同十六日

人事移動

五月二十七日附
 關西甲種商業學校長 垂水善太郎
 依願免本職
 推薦關西甲種商業學校名譽校長
 關西大學第二商業校長 內多精一
 依願免本職
 關西大學學長 仁保龜松
 關西甲種商業學校長及關西大學
 第二商業學校長事務取扱兼攝
 五月三十日附
 學生課主任兼學生主事 矢島彪
 依願免本職及兼職
 六月一日附
 學生主事補 竹腰吉治

命學部豫科學生課主任事務取扱

生徒主事 可野敬四郎
 命専門部學生課主任心得

教練補助兼學生主事補 柴田定藏

免教練補助命學部豫科學生課勤務
 關西甲種商業學校教諭 神田榮吉

委囑關西甲種商業學校臨時教務主任

關西大學第二商業學校教諭 渥美元次郎

委囑關西大學第二商業學校臨時教務主任
 五月十四日附

任本學教練補助兼學生主事補 宮崎藤平

法學博士 武田宣英氏

獎學資金を寄附せらる

第一回卒業の本學監事、協議員、辯護士、法學博士
 武田宣英氏は、創立五十周年を機とし、獎學資金とし
 て金三千圓也（昭和十一年より向ふ十ヶ年間毎年三百
 圓宛）を本學に寄附せらるる事となり、その第一回を
 五月接受した。本學にては南榮爾氏寄附の南獎學資金
 と共に、武田獎學資金として學術獎勵の資となし、永
 く芳志を傳へる事とした。

關西甲種商業學校長

垂水善太郎氏辭任

關西甲種商業學校長 垂水善太郎氏は今回本學創立五
 十年を機とし退職せらるる事になった。

氏は明治二十一年本學の前身關西法律學校創立直後
 本學に入り、同校幹事として十數年教務に執掌し、明
 治三十八年關西大學と改稱せらるるや總務幹事となり
 、大正八年財團法人設立と共に理事に選任せられ、大
 正元年附屬關西甲種商業學校設立と共に校長事務取扱
 又は校長として校務に盡瘁、勤続殆ど五十年、本學今
 日の基礎を築き上げた功績顯著なるものあり、創立五
 十年式にはその勤績功勞を表彰し記念品を贈られた。
 齡を重ねること七十二、老耄矍鑠たるものがある。而
 して今後は同校名譽校長に推薦せられた。

協議員 大鐘彦市氏逝去

本學協議員・元監事大鐘彦市氏は病氣療養中の處、
 藥石の效なく去る四月二十七日逝去さる。

氏は故砂川、柿崎氏と共に大阪に於ける辯護士界の
 長老にして本學の前身關西法律學校の講師として來講
 され、其の後社団法人に組織變更の際社員となり、財
 團法人設立せらるるや協議員として又一時は監事とし
 て本學の爲に盡さるる處多大であつた。

五日二日大阪市北區寶珠庵に於ける本葬には本學の
 代表者參列弔意を表した。

がくほう抄

▽大山彦一教授 五月十七、八日兩日、東京、早大及
 慶大に於て開催されたる日本社會學會第十一次大會
 に出席「滿洲社會の構造と其統制」なる研究報告を
 なす。

△中村良之助教授 五月十七日、彦根高等商業學校に

於ける移植民學會にて、「U・S・S・Rの極東政策とシベリア植民の關係」に就いて研究發表せり。
 ▼西村信雄教授 民商法雜誌第三卷第五號に「保證契約の解約權」並に「身元保證法第五條」日本公證人協會雜誌第十四號に「徳川時代の身元保證契約證書(奉公人講座)」を執筆。

—— 轉居 一束 ——

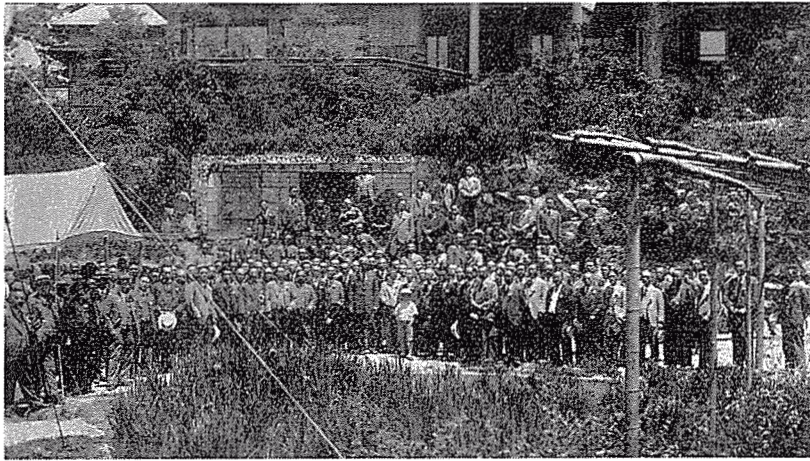
- ▼長谷川長氏 (配屬將校) 三島郡吹田町寄町二八八〇
- ▼龜井豐氏 (配屬將校) 豊能郡岡町櫻通一丁目一二五八
- ▼頼經彰一氏 (學部教務課) 東淀川區三津屋南通二丁目二八
- ▼堀治吉氏 (專門部學生課) 東成區北生野町二丁目五一ノ二
- ▼西井克己氏 (講師) 京都市左京區淨土寺馬場町二三
- ▼山崎直樹氏 (講師) 京都市左京區下鴨勝部町五二
- ▼富山四郎氏 (講師) 兵庫縣武庫郡住吉村畔倉一〇九六福地方
- ▼宮崎藤平氏 (學生主事種) 三島郡吹田町泉町三四一〇
- ▼茶谷勇吉氏 (舊講師) 旅順柳町一丁目法院官舎
- ▼岡本重彦氏 (舊講師) 京都市左京區田中大堰町二三
- ▼佐治謙讓氏 (舊講師) 福岡市藥院古小島四四二

今般、校友、橋口勳夫氏(辯護士)より、本學創立者鎌川忠二郎氏外講師の寫眞五枚の寄附あり、謹んで謝意を表します。 學 報 局

校 友

大阪支部春季懇親會

曩に母校創立五十周年の祝典舉行に際しては本會主



三夜莊に於ける大阪支部會員の一行

催の下に近畿在住校友祝賀會を式典第二日の五月三日千里山學舎に於て開催、遠近より參會する者九百三十餘名に達し、大會場を揺がす空前の盛會であつたことは學報式典記念號に報ずる如くであるが、恒例の本會春季懇親會は六月七日若葉薫る京洛の地に開催した。此の日や快晴の好日、京阪天滿橋に集合の一行は午前九時半二輛の貸切車にて宇治線觀月橋に下車、大谷光瑞師の別墅三夜莊に臻る。宇治川を前に詩史に富む淀の地、宇治、山城、大和の山々を見はるかす大景觀を擅にする庭内にて光瑞師と語り、晝食を攝り、ついで宇治黄檗の閑寂な禪苑に心耳を洗ひ、山門を出てから茶摘み歌こそ聞かなかつたが、菊香

六地藏よりバスに分乘して醍醐寺に至る、何はさて天下の醍醐である、開創以來御歴代皇室の御歸信深く境内は廣衣何十萬坪、大小の伽藍堂塔が山を廻つてその數を知らない、先づ三寶院を拜觀、建物は桃山時代の粹を誇り、壁畫、襖繪は狩野山樂其の他の名筆に成り豪華なものである。また庭園泉石は豊公の好みで、一代の榮華を誇つた醍醐の花見を偲ぶ數々の遺物が多い。池泉に臨んで設けられた床机に茶を服して一憩した。

午後四時京より迎ひの自動車にて山科大石神社に參拜、良雄舊邸の跡を過ぎて、本日の宴會場京都木屋町「鮎鶴」にいたる、一浴して氣を新にし、鴨の清流を耳にし、こそその風水害に裸にこそなつたが東山の寂姿清水、矢阪、知恩院の堂塔を一時に收める座敷に席を占め五時半舞臺には餘興の能狂言「水掛け罎」其の他が演ぜられ、その面白おかしさに皆を喜ばせた。つい

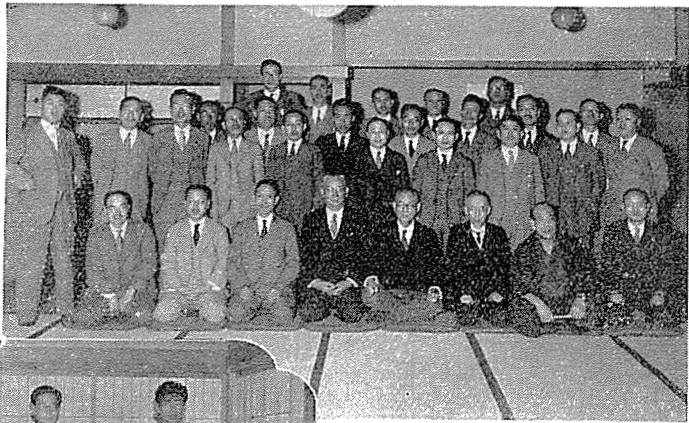
で配膳、先づ喜多村支部長立ちて開會の挨拶を述べ、會計報告をなし、内藤副支部長とも、本日の愉快な行程を立てられた幹事諸君を稱して杯を擧ぐ、酒間には京の雛妓侍り、歎詞場に滿つ、折柄の福引はゆかりも深い伏見人形は大いに座興を添へた、かくて十二分に觀を盡して閉宴したのは午後八時半であつた。

當日の出席者は左記百三十一名である。

伊藤元、飯田清藏、岩崎卯一、糸島賢太郎、飯田正一、
 一海景菊、石川登、池田信之助、岩島友一、生島藤藏、
 島田繁太郎、原田鹿太郎、橋本鹿藏、羽賀一郎、八島治一、
 丹羽宇三郎、西本寛一、本田武藏、堀正人、富田金三郎、
 榎木浩巖、富田仲次郎、戸波次郎、徳矢清太郎、遠部達太郎、
 大崎萬太郎、長義道、大月伸、大山彦一、後西大次郎、
 大宅元三郎、河村信一、神田榮吉、海北半平、桂忠雄、
 河村宜介、加藤金次郎、可野敬四郎、神尾數民藏、柏元孝治、
 吉村種藏、吉田晉松、吉田一枝、垂水善太郎、玉木三郎、
 武田藏之助、高松林之助、竹井小野右衛門、田中可長、
 田所留三、竹西宗助、丹二良、竹腰吉治、谷口宗一、永田真雄、
 内藤正剛、中村公男、中塚正信、中村部次郎、中谷敬齋、
 中塚行藏、永井量一、中村岩見、中村良之助、中井三之助、
 長瀬萬壽治、中尾房太郎、中田秀太郎、村松岩吉、
 浦田豊、植松忠次郎、梅原貞治郎、植田完治、内田露、
 歌橋千秋、野崎勇二郎、野口政治郎、野村次夫、黒田莊次郎、
 飯貫宜、飯下吟次郎、八木孝三、山田卯三郎、山本晉次郎、
 山根謙藏、矢口孝次郎、山下榮松、増山忠次、松本標四郎、
 正井敬次、松本茂三郎、松本芳太郎、前田常好、松本實造、
 松廣末松、松原健一、藤本峰雄、袋井榮太郎、福田次彦、
 小泉幸治、兒玉善吉、近藤友房、榎本金次郎、瀨美元次郎、
 佐伯三郎、喜多村桂一郎、木村健助、菊田金次郎、
 木村順次郎、岸本芳夫、三浦三郎、水谷揆一、箕田正一、
 三枝樹正道、宮崎秀夫、三島律夫、南清、新野徳之、
 清水兵衛、神保俊男、下島光、正田麻治、森内梅吉、森下政一、
 側野馬、杉本信雄

福岡支部

當部春季例會を四月十九日午前十一時、博多築港記



會賀祝年周十二會念六 (上)
 部支灣臺 (下)



念大博覽會場内迎賓館に於て開く。

この日天氣晴朗、博多灣内の風光絶佳を賞美し、やがて支部長池田重吉氏一場の挨拶後、母校五十年式典に列席の儀を協議し、正午開宴一同いづれも往年の燒芋時代に若返り高談爆笑、

二時頃席を演舞場に移し觀を盡して和氣黨々裡に散會したるは五時であつた。

(出席者) 池田重吉、伊崎義雄、馬場圓吉、丸山彌三、古賀隆、齋藤元次郎、諏訪藤之助

臺灣支部

四月四日正午より基隆の侯賀君を迎へて、太平町モナミに於て小宴をはる、
 四月八日午前八時二十二分、小林隆義君内地へ歸還に就き會員一同見送る。

四月二十三日午後六時より太平町モナミに於て例會を開く、五月二日の母校創立五十周年記念を意義あらしむべき事項を打合せ。

五月二日、母校創立記念式典を舉行せるに當り、當支部に於ても之に呼應して、當日午後六時より臺北市西門町よね山(食道樂)に於て祝賀會を開催す、尙會員には記念品を贈呈し、之を機に山口正成氏に支部より感謝狀及木杯一組を贈り、母校宛電電を打つ。

(出席者) 林佛樹、小川言善、太田義三、中村八十一、中村進、中村一徳、野坂眞三、山口正成、小谷茂雄、淺野三次、重田鶴男、門田文三、菅俊雄、廣田弘樹

尙特筆すべきは、吾等がこの擧に對し左記臺灣各新聞社がサービスマニユースされし事であつた。

臺灣日日新報、臺南新報、臺灣新聞、臺灣新民報

大連支部

新緑の滴たる中に連櫻の點々と咲き添えた内地に劣らぬ幽遠境、南華園に於て五月十五日午後六時より春季總會を開催、定刻前より三々伍々相集る者十八名、これに目下滿洲の古墳研究と皇軍並に奥地在住邦人慰問講演に御來滿中の尾上金城先生の御來場を得て總會兼懇親會は層一層と精彩を放ち、先づ秀島幹事より開會の挨拶あり次で本年度の決議事項の議決を終り更に今回母校五十周年祝典に參列された中村支部長より當日の狀況並に二三十年振りに見る關大の驚異的發展と大阪の急進なる變化には全く吃驚したと幾分赤毛布式の諧謔味をとりまじえたお話あり一同は母校の隆盛振りをこの遼東の一角から衷心歡喜の情を募らせた。大連自慢の安兵衛の料理に一同は牛飲馬食、高談大聲、和氣は霽々として一山を罩め記念撮影後午後十時散會した。

當日の出席者

尾上金城先生、中村景太郎、高嶺源一、高濱直一、室山守太郎、飯田昇、秀島全浩、木村儀八、山崎義隆、札幌茂次、福部章、今村茂、濱島久義、國友則親、結城丙太、谷口雄、中谷顯一、杉原正巳、平井三朗

『秀麗會』に就て當大連支部に於ては毎月校友の月例會を開いてゐるが今回月例會を『秀麗會』と呼稱することに決定した。吾々は以前より區々たる卒業年度を表明する會名以外に關大校友會を全國的に一括した名稱が欲しいと思つて來た處幸ひ今回『秀麗會』なる

名稱を得たので今後少くとも滿洲に於ては關大と云へば秀麗會、秀麗會と云へば關大を想起せしめるまでに努力する決心であり尙將來はこの秀麗會を全國的に押し廣めたい希望を持つてゐるが先づ校友諸兄の御批判を乞ふ(但しもつと關大に適した名稱があればそれに變更する)

新京支部

一陽來復の春を迎へ、我が新京支部も發會式を目前に控へて、四月例會を十二日午後五時半より記念公會堂に於て開催した。先づ發會式の準備に關する經過報告あり、今後毎月の會合日を一定する件に關し協議の結果、大學記念日が十一月四日に改正されたるにより四日と云ふ事となり、先づ發會式より實施する事に決定した。次で支部今後の希望、方針、大連支部との聯絡等話は盡きず時の移るのも氣付かなかつたが、午後八時發にて離京される森田氏母堂御見送りの爲閉會、一同新京驛に向つた。

(出席者) 大北良之輔、村田増男、櫻木一雄、喜多初次、光井章雄、鈴木忠雄、鈴木良

大三會

第三十六回會合臨時懇談會の記

期日 昭和十一年五月三日

會場 千里山關大學部校庭

別項所載の如く母校創立五十周年記念の諸催は空前の盛況を以て開始され本日は其第二日として校友大會の舉行となつた。此好機を利用して本會に於ても臨時懇談會を催すこととし午前九時半北區扇町市電病院事務

局(常任幹事戸波君の勤務所)に集合し打揃ひて千里山學舎に至る。校庭の一部に設けられた校友大會々場の一隅に席を定め折詰を開いて懇談を交へ吉例に依る杉本君の撮影を煩はしたる後豫科講堂の記念展、或は大グラウンドの競技等觀賞母校の發展振りを祝福して散會した。出席者左の通り

橋本 鹿藏 戸波 次郎 岡本 義男 武石 貞雄
中塚 竹藏 右田 忠吉 山本哲治郎 松本茂三郎
松本芳太郎 秋山 米藏 三木基太郎 島 真司
杉本 治作 忽那文治郎 増田房治郎 生治 壽翁

二十周年記念

六念會祝賀會

大正六年本學出身者を以て成る六念會にては本年は卒業後二十年に相當し、最近小野村胤敏君は日本大學大阪専門學校長に、大月伸君は大阪辯護士會副會長に、荒賀勝平君は京都府會議員に、山口定亮君は大同鐵工所社長に、谷田俊二郎君は石原製鋼業並に若山鐵工所社長に就任したる祝賀と、恩師の謝恩會を兼ねて五月二十六日堂島「魚岩」に於て開催した。當日出席された恩師神戸博士、鳥賀陽博士、川崎齊一郎先生、玉木三郎先生、武田藏之助先生初め會員二十九名、何はさて校門を出で、より二十年、當時紅顔の青年も今や押しも押されぬ活躍ざかりである。互に久瀾を叙し、恩師を廻つて懷舊談に時を忘れ、頗る愉快に終始して恩師並に會員の健康と前途を祝して盛會裡に閉宴した

當日の出席會員(順次不同)
井上 永次 花田菊太郎 馬場 弘道 羽間平三郎
丹羽宇三郎 本田 武藏 小野村胤敏 大月 伸
小原 是壽 岡原勝太郎 柏原 好郎 桂 忠雄

横田長次郎 竹田住次郎 竹石 貞雄 竹西 宗助
 田中 肇 中尾 義雄 永田規矩夫 中村 岩見
 野口政治郎 藪貫 宣 山口 定亮 山根 謙藏
 荒賀 勝平 木村 覺造 湯川 喜七 宮崎 秀夫
 備前仙五郎

神戸市役所關大俱樂部

創立五周年記念總會

神戸市役所關大俱樂部は創立以來名實共に逐年發展し來り今春を以つて創立滿五周年を迎へ若葉萌ゆる四月二十七日神戸驛前加藤館に於いて其の記念春期總會を催し園樂の一夕を送つた。

午後六時過雨天にも不拘會長小西建左衛門氏(湊東區長)以下會員二十三名の會合を得、母校よりは武田藏之助先生の御出席あり盛會だつた。

先づ今岡君開會の辭を述べ小西會長の挨拶あり、續いて武田先生より母校創立五十周年記念事業其の他母校の近況につき詳報せらるゝあり一同新に感激を覺えた。次いで多賀幹事より會計報告、事務報告あり更に會長より次期幹事を別項の如く推薦せられ宴に移る。自己紹介の後一同胸襟を披き歡談を盡した、會員夫々猛者振りの發揮よろしきものあり最後に母校の萬歳を三唱し九時過盛況裡に會を閉じた。因に當日の出席者と新任幹事は次の通り。

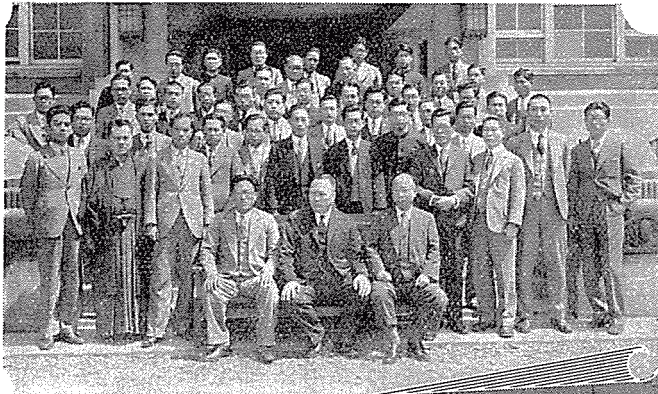
(出席者) 武田藏之助先生、小西建左衛門、仁禮景貴、米富康雄、今岡琢磨、山本與喜三、山本克巳、三浦益次、冬木伊作、馬場達平、藤野四郎、藤井政一、多賀恒一、山本鎮郎、平野浩、池田一郎、河原政次、安西信正、井上二郎、壺井富治、谷正司、小出利一、深水義泰、田中辰太郎
 (新任幹事) 今岡琢磨(財務課、山本與喜三(經理課、大西克巳(港灣課、山本克巳(遊園、池田一郎(森合

大阪遞信局

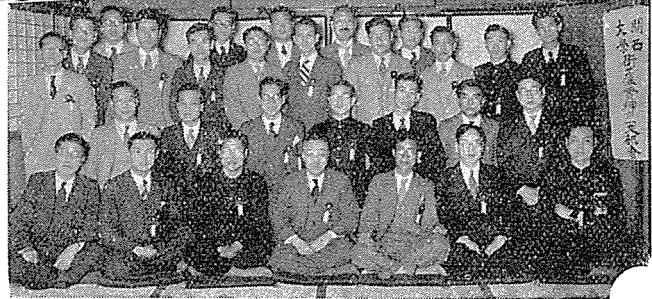
K U S 會

會長沖鶴忠氏は今回京都西陣郵便局長に榮轉の爲會長を辭任せられ之が送別會を兼ね臨時總會

區、多田隆久(神戸區)、壺井富治(湊東區)、谷正司(湊區)、赤尾保(兵庫區)、森且盛(林田區)、小出利一(須磨區)



會 S U K 局信遞阪大 (上)
 會發部支戸神會蘆衛 (下)



會を五月六日午后五時より遞信局高等官食堂に於て開催した。

先づ臨時總會に於て後任會長選舉の結果八木萬太郎氏當選就任す。

次で六時より沖氏を迎へ送別會に移る。出席會員五十名の多きに達し共に胸襟を開きて談じ最後に沖氏の健康を祈りて解散す。

尚沖氏を圍んで遞信局支關にて記念撮影をなせり。

千里山

戌申會例会

昭和三年度學部卒業者より成る千里山戌申會では、學園創立五十年式典を機として去る五月十三日午後六時から、野崎、菊田兩幹事の肝入りで大和田豊島樓に久し振りの例會を催ふした。會する者林(英)、小森、大塚、喜島、小角徳久、藤下、野崎、菊田、森川の十氏、或ひは久瀨を叙し、或ひは各人現在の生活、心境等を語り交して時の移るを忘れ、午後十時盛會裡に散會した。次期幹事には大塚、前田、森川の三氏が指名せられたが、同會では今後規則的に會合を開き、會員相互の連絡、親睦を一層厚うせんことを期してゐる。

三二二會懇親總會

昭和七年度即ち一九三二年度各科卒業生を以て組織

せる三二會總會を、四月十九日午後五時より東區内淡路町牛尾右三君宅の一階に於て開催す。

當日は遠藤吉次君の滿洲國現狀及將來の展望なる講演あり、次に鐵工業視察及販路擴張の爲、南洋及歐米各國へ出張し、最近に歸朝せる赤井常隆君は彼の地に於ける一般重工業の現況と勞務問題に對する使用者側の意見を綜合的に發表し、最後に齒科醫院を開業せる牛尾右三君は、彼獨特の經濟理論より全大阪征覇十年計畫に就て高遠なる理想を披瀝し、一同それを激勵して萬歳三唱裡に十一時閉會、

尙本日は市役所勤務の上岡健行君の大都市行政特に社會施設の問題に關し有益な講演ありたり。

- (出席者) 遠藤吉次、久保田健一、北村專一、宮本新太郎、大江健次郎、赤井常隆、鳥巢隆三、奥山治、小谷徳藏、今西藤治、牛尾右三、土井正登、小村捨夫、渡邊展敏、高畑時一、上岡健行、坂根敏雄、弓削仁正、筒井淳造、森義正、永田初二、森内純吾、藤田健一、山本清美、阿南正成、鶴原幸雄、岡田收三、角中義男、田中伊造、木下榮次郎、松本石翠、栗原富徳、角通一雄、樫田義徳、築山榮一

銜蘆會發會式

本年二部法律學科卒業生を以て組織する銜蘆會發會式は、四月二十六日午後五時市内美津渡百貨店宴會場で開催せられた、武田主事、坂本、野中先生を迎へて會則の承認、次回の役員選舉を終り、晚餐のテーブルに着く、原京助開會の辭を述べ、武田主事より二部卒業生としては稀なる會合との稱賛を得、野中先生より修養談あり、各出席者の自己紹介並に簡單なる意見の開陳があつた。食後デザートコースに入るや、各自の

一問一答に時の移るを忘れ、一同關火の萬歳を三唱して散會したのは十時過ぎであつた。

- (出席者) 石田留衛、土田重太郎、江川健次、鎌倉與利一、小森三雄、里見義彦、仲野孔雄、中村政雄、馬淵精、北條司、山崎正一、原京助

神戸支部發會

銜蘆會員中神戸地方在住者は、四月二十一日午後五時須磨寺遊園地内福壽旅館に、神戸支部發會式を舉行した、集る者三十名、原田鹿太郎先生を圍みて先づ記念撮影をなし、次いで青山靜亮氏の閉會の辭あり、幹事長に原京助氏を推薦し、滿場拍手の中に原氏承諾、次で會則協議なり末記七名の幹事を推薦、月並會場所を坂井清氏の斡旋に依り外航旅館事務所と定め、名譽支部長に原田先生を推薦、時に仁保學長、武田主事より祝電到着せるを以て拍手裡に朗讀す。懇宴に入り興盡くる處を知らず、十一時に至りて關大と銜蘆會の萬歳を三唱して、互に握手と名刺の交換をなしつつ、散會した、因みに幹事次の如し

- 青山靜亮、小川壯一、小林要、坂井清、藤井政一、丸尾熊市、三佐藤岩夫
(出席者) 小林要、白井彰二、渡邊徳右衛門、坂井清、三佐藤岩夫、竹内誠一、田尻美之留、青山靜亮、東一美、北口敏雄、川崎武雄、吉田勝、青山清、山本克己、藤井政一、小川壯一、三浦益次、藤原忠、難波正一、竹本龍、安永孝、宮地利成、有田米雄、木下隆義、山本時夫、堀毛多計之、押坂彰義、原京助

動 靜

間島徳次郎君(明三二法) 赤十字高松支部病院事務長
安川勝太郎君(明三四法) 水道協會大阪出張所

木下 定次君(明三五法) 司法理事官退官、住所三島郡吹田町

山地 茂直君(明三七專法) 丸龜市役所助役
菊池 勳君(明三八專法) 大阪控訴院書記長、住所北區堂島濱邊官舎

中村 守君(明三九專法) 大分縣農工銀行監査役
山田榮次郎君(明三九專法) 臺灣臺南刑務所長

松田徳太郎君(明三九專法) 大阪府社會課社會事業主事
向井 威夫君(明四一專法) 臺灣臺南州斗六食鹽元賣捌

海北 半平君(明四四大法) 大阪市水道部料金課集金係長(主事)

福田 莊平君(天三專法) 財團法人鐵道弘濟會大阪支部三宮營業所、住所岡山市上伊福二八四

伊藤 茂君(天四大商) 成和信用組合常務理事(四谷區旭町一)住所東京市日本橋區小網町二丁目九

米谷卯三郎君(天四專法) 大阪市東淀川區出張所長より東成區長に

篠内 正雄君(天四專法) 大阪市港灣部技術課防波堤係、住所天王寺區筆ヶ崎町七七

水田 信重君(天五大商) 東洋紡績會社退社
大島 政一君(天五專法) 大正區役所戶籍係長退職

松崎 友一君(天六專法) 大阪變壓器會社、住所尼崎市中長洲町南畑一四〇

羽間平三郎君(天六大法) 大阪市會議員
丹羽宇三郎君(天六專商) 住友倉庫本店中之島營業所

堀尾 政雄君(天七專法) 大阪府會事務局庶務科長
安達彌五郎君(天七專法) 大阪市労働共濟會

谷口 一長君(天七專法) 大阪地方裁判所判事

小野内六郎君(天九 大法) 長野縣立諏訪蠶糸學校を辭

し、名古屋市東區千種赤森町東邦商業學校へ轉勤

沖 鶴忠君(天九 專法) 大阪遞信局監督課郵務係長

より京都西陣郵便局長へ轉勤

木下 一男君(天九 專法) 大阪市教育部教務課教務係

長(主事)

松本 茂君(天二 專商) 關東州獅子窩公學堂

久松 幸三君(天二 專經) 橫濱市中區本町二丁目住友

銀行橫濱支店

高砂恒三郎君(天三 專法) 大阪市經濟研究所主事

開野 甲子君(天二 專法) 大阪市東淀川區會計係長

棗 耕三郎君(天三 專法) 和歌山市長秘書室、住所和

歌山市九番丁二三

長野 友市君(天二 專法) 愛媛新報社整理部長退職

横田 敬治君(天二 專法) 大阪市立刀根山病院庶務係

長

北村清太郎君(天二 專法) 福山市松山町福山營林署

鶴谷 湫彦君(天二 專商) 商業興信所、住所東區島町

二丁目四〇

木村 末松君(天五 專法) 任警部、奈良警察署

鈴木 敏雄君(天五 專法) 任警部補、朝日橋署より島

之内署へ轉勤

山下喜代志君(昭二 大經) 大林組、住所北河内郡友呂

岡村育次郎君(昭二 大經) 大阪船場實務學校、住所東

成區片江町四四八

奥野 忠夫君(昭二 大商) 會根崎警察署より警察練習

所へ轉勤

森 辰巳君(昭二 大商) 計理士

笠井 義延君(昭二 專法) 此花區役所稅務係長

福島政次郎君(昭二 專法) 富山縣高岡警察署司法主任

警部補

永野 一憲君(昭三 專商) 大阪市電氣局電燈部天下茶

屋營業所長

川口 友治君(昭四 大經) 東洋紡績會社教員工場人事

課、住所福井縣敦賀町津内東紡社東通三五

小林 一男君(昭四 專法) 辯護士、住所此花區春日

町一五一ノ二

島 久四郎君(昭五 大法) 日本製鐵會社

拜 郷 木君(昭五 專商) 朝鮮窒素肥料會社

海老 政雄君(昭五 專法) 大阪職業紹介所、住所浪速

區惠美須町二丁目

石田 芳春君(昭六 專經) 日出紡績會社姫路工場、住

所姫路市船橋町五丁目一〇

花田金之助君(昭六 專經) 此花商業學校、住所西淀川

區海老江下二丁目六三

本出 幹夫君(昭六 專法) 東京市瀧ノ川農林省職後研

究所

倉知 修君(昭六 專法) 大阪市旭區役所

鷺見 孝義君(昭六 大法) 大阪刑務所教務課、住所堺

市田出井町官舎乙四二號

直吉巳一郎君(昭七 大商) 三榮洋行大連出張所、住所

大連市紀伊町三七

蜷木 必君(昭七 大經) 戶畑市明治鑛業會社、住所

戶畑市千防町明鑛合宿

田中 芽君(昭七 大法) 大阪市港灣部、住所西成區

粉濱中之町一丁目二三

柏木 儀治君(昭七 專法) 奉天府加茂町一八ノ一、夕

イガリ計算會社奉天出張所

森 悅三君(昭七 專商) 大阪遞信局工務課庶務部試

驗係化學班

宮本 俊文君(昭七 專商) 大阪大正郵便局

原田 謙一君(昭七 專商) 原田源三商店(西區靱南通

一丁目五)住所西成區岸松通一丁目六

中野 英一君(昭八 大法) 大連市役所

國友 則親君(昭八 大法) 大連機械製作所、住所大連

市臺山町二三

林 茂之君(昭八 大經) 神戸市兵庫築港第一突堤、

神戸商運合資會社兵庫營業所

内村 一穂君(昭八 專一法) 臺灣總督府專賣局酒課、住

所臺北市兒玉町一丁目一〇

赤井 定雄君(昭八 專一法) 神戸中央電信局、住所神戸

市兵庫區湊町一丁目四八六、上山方

片田 勇吉君(昭八 大法) 新京市特別市豊樂路、豊樂

洋行綿布部

指吸 時治君(昭八 大法) 大阪市教育部社會教育課

北島 好男君(昭八 大法) 大阪朝日新聞社、住所北區

常安町五中之島寮二〇二號

木田 篤孝君(昭八 專一法) 東京市麴町區大手町東洋火

災保險會社

松本九一郎君(昭八 專一法) 東京市麴町區大手町東京火

災保險會社

岩井 巖君(昭九專一商) 東京火災保險會社本店、住

所東京市澁谷區伊達町三三、三田山館内

田上 實君(昭九專一法) 滿洲國軍政部軍法課軍法官

住所新京朝日通二三朝日館

馬場 圓吉君(昭八專二法) 三和銀行福岡支店

鈴木 貞二君(昭八專二法) 大阪市電氣局電燈部料金課

鶴本 定巳君(昭八專二法) 朝日橋署、住所西淀川區高

見町三丁目四

畑中 谷造君(昭八專二法) 大阪市保險部清掃課、住所

住吉區濱口町四〇九

本井 吉雄君(昭八專二法) 東區瓦町一丁目五、大阪中

央特許事務所

山本 忠一君(昭八專二法) 廣島市宇品、廣島鐵道局運

輸課、住所廣島市元宇品町文化山莊一三號

木村 馨君(昭八專二法) 大阪鐵道局立花驛(兵庫縣

川邊郡)

山内 爲男君(昭八專二商) 大阪市經理部管理課

岩田 勝見君(昭八專二商) 浪華商業學校

佐々木高明君(昭八專二法) 神戸市兵庫區水木青年學校

秋吉 敏郎君(昭九 大法) 茨城縣廳内産業組合中央會

茨城支會、住所水戸市西町日本キリスト教會

河田 矩次君(昭九 大經) 名古屋市西區泥江町二丁目

八ノ三、日本輸出莫大小工業組合會支部

松本 榮一君(昭九 大商) 大阪府總務部統計課を辭し

市岡第二尋常高等小學校に勤務

山中 信夫君(昭九專二法) 滿洲國錦州省錦縣稅捐局

村上 芳雄君(昭一〇專一經) 臺灣臺南市役所

谷口 彌一君(昭一〇專二法) 辯護士、東區博勢町二丁

目六八

當山 竹一君(昭一〇專二法) 滿洲派遣軍清水本部隊山

本部隊西田隊

高原 盛男君(昭一〇專二法) 天王寺署より岸和田署へ

轉勤

石原 宗彦君(昭一二大商) 天津日本租界淡路街二四、

西長糠皮工廠

中岡 九一君(昭一二專一法) 中岡蓄音器商會、住所北

區天神橋筋二丁目三一

谷藤 遜君(昭一二專一法) 大日本人造肥料會社大和

田工場庶務係、住所住吉區住吉町一七二七

近藤 孝君(昭一二專一經) 大同電力大阪支店地所課

阪本 昇君(昭一二專一商) 堺市立(少林寺・湊)青年

學校

杉塚 正巳君(昭一二專二商) 國際運輸會社大連出張所

移 動

南院(舊姓南) 泰紀君(昭三〇 法) 住吉區天王寺町二九九六

戸臺巳之助君(昭三七 法) 東京市麴町區九段中坂、靜

修館

森塚 圭城君(昭三八專法) 八王子市明神町二〇九ノ二

德光 耕作君(昭三九專法) 住吉區北田邊町七九六

岡本 榮吉君(天三 專法) 旭區蒲生町四一六

鈴木 多吉君(天五 專法) 西淀川區佃町五四七

森 廣治君(天五 專商) 北區常安町中之島小學校前

山根 瀧藏君(天六 專法) 天王寺區倫人町九五(電天

七〇一)

荒賀 勝平君(天六 專法) 京都市上京區柴野柳町五一

竹中 友治君(天一〇專商) 東成區東小橋北之町三ノ二

桑原 正男君(天四專法) 堺市中田出井町三丁九一

金星 武三君(天三專法) 天王寺區大道三丁目一三

(電天五四三〇)

小川 言吾君(天四專法) 臺北市建成煙草工場前

絹田 英一君(天三專經) 西淀川區大和田町四四二

蜷木 茂驥君(天三專商) 西宮市今津高潮三六

乾 英一君(天三專商) 東淀川區山口町四七二

名越 日月君(天三專法) 西區新町通六三

西原誠太郎君(天四大法) 臺灣海山郡三峽

奧河佐嘉喜君(天四專商) 臺北市東門町文化村一條

大泉 三郎君(天五大法) 泉北郡大津町二田二七六

井上 彌平君(天五專法) 長崎縣東彼杵郡大村町武部

鄉一一七一

松岡 行雄君(天五專經) 神戸市兵庫區大開通九丁目

六(電湊川三二六九)

門脇 六郎君(天五專經) 滿洲國新京老松町四、滿洲

丁字屋

高沖 次郎君(天五專經) 泉北郡濱寺町下石津四六三

加藤 敬之君(天五專經) 尼ヶ崎市西本町二、淨善寺

松村源治郎君(昭二 專法) 三島郡吹田町濱堂一一三〇

吉永 登君(昭二 專文) 豐能郡池田町石橋二五

宮本三七雄君(昭二 專文) 堺市中向陽町一丁三五

德久 俊次君(昭三 大經) 兵庫縣武庫郡御影町郡家字

庄田二三四

佐藤 平吉君(昭三 專法) 東淀川區本庄西通三ノ二〇

戶澤 武君(昭三 專法) 尼ヶ崎市神田北通五丁目一

伊 秀夫君(昭三 專經) 四九 尼崎市難波本町七ノ四五九

(舊姓島國)
横田 清君(昭三) 專經

池内 幾久君(昭三) 專經
(昭八) 專三經
(昭一) 大政

久松 鹿治君(昭七) 專法
(昭三) 大政

磯田賢二郎君(昭三) 專文

(舊姓米田)
中野 唯字君(昭四) 專商

杉本 利雄君(昭四) 專商

川島 一尾君(昭七) 專法
(昭四) 大政

丑田 榮壽君(昭四) 專商

金田 桂君(昭四) 專經

勝又 愛憲君(昭五) 大法

大西 克巳君(昭五) 專經
(昭八) 專三經
(昭一) 大政

村井 富男君(昭五) 專經
(昭八) 專三經
(昭一) 大政

重田 政次君(昭六) 大法

入江 二郎君(昭六) 大法

有賀 次郎君(昭六) 大經

篠内 兼藏君(昭六) 專英

堤 卯三郎君(昭六) 專商

山口 秀盛君(昭六) 專法

兵頭 熊雄君(昭六) 專法

矢野 政次君(昭六) 專法

島橋 良一君(昭六) 專法
(昭九) 大政

京都市伏見區東濱南町六五

兵庫縣川邊郡小濱村米谷木
戸五

住吉區昭和町中二丁目三五

東成區舍利寺町一二四

福岡縣京都郡対田町濱町

東成區猪飼野東一丁目五

神戸市灘區高羽常磐木六

三重縣名賀郡田津村布生、
惣正寺

西成區粉濱本町四丁目七四

港區入舟町一丁目一〇

神戸市林田區本庄町四丁目
六〇

北河内郡香里園成田不動前
八〇〇ノ一

臺北市龍口町二丁目一六

西成區玉出本通二丁目五二

西宮市西濱新家三二八四、
吉川藩方

東成區大今里町三七九

港區魁町三丁目二〇、堀川
三平方

旭區中宮町五一八

住吉區帝塚山中五ノ一

三島郡吹田町旭町一丁目一
〇〇八

中河内郡彌刀村小若江三九

津川 鑑一君(昭六) 專經

篠内 兼藏君(昭六) 專英

山田 六郎君(昭七) 大法

渡邊 英和君(昭七) 大經

砂嶽 政憲君(昭七) 專商

中西 兵二君(昭七) 專商

鳥巢 隆三君(昭七) 專法
(昭一〇) 大政

杉本 道男君(昭七) 專商

稻留 秀穂君(昭七) 專法
(昭一〇) 大政

筒井 淳造君(昭七) 專經
(昭一〇) 大政

東口 徳次君(昭八) 大法

戸倉 專三君(昭八) 大法

仁禮 景實君(昭八) 大法

阿部 正貫君(昭八) 大法

太平 太郎君(昭八) 專一法

太田 義三君(昭八) 專一法

藤田 正明君(昭八) 專一法
(昭一〇) 大政

松山 厚盛君(昭八) 專一法
(昭一〇) 大政

藤家眞次郎君(昭八) 專一法
(昭一〇) 大政

石田 三男君(昭八) 專一法
(昭一〇) 大政

旭區生江町四四一

東成區大今里町三七九

西區立賣堀南通五丁目四

南區横堀七丁目三三

西淀川區大野町八二、大阪
アルカリ社宅三ノ一八

豊能郡豊津村垂水千里山ア
パート北陽荘

京都市伏見區竹田七瀬川町
二二二

北區堂山町三九、藤井次郎
平方

東淀川區十三南之丁一ノ一
五、木下重雄方

此花區秀野町二八ノ七、羽
生方

西成區萩ノ茶屋花園町三三
花園荘内

滿洲國奉天府藤浪町四二

神戸市葺合町籠池通六丁目
三四

三島郡千里村片山三三ノ一

浪速區惠美須町四丁目七

臺北市錦町七五

浪速區大國町三丁目七

東淀川區中津本通三丁目一
〇三

岡山市上石井一〇九

東淀川區國次町九八小林方

盧相 郁君(昭八) 專一經
(昭一〇) 大政

石原 宗彦君(昭八) 專一商
(昭一〇) 大政

小幡 俊次君(昭八) 專一商
(昭一〇) 大政

高田 正文君(昭八) 專一商
(昭一〇) 大政

大中 清一君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

内海 潔君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

網 榮次郎君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

油谷 重一君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

今田 命太郎君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

岡田 文雄君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

佐藤 淺市君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

田上 實君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

村野 伸造君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

宇都宮次夫君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

盛 又三郎君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

赤尾 道信君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

桂原 勝巳君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

栗本 義重君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

中村 貞次郎君(昭八) 專三法
(昭一〇) 大政

京城府竹添町三丁目四

北區善源寺町八丁目五五、
牛谷方

岡山縣兒島郡宇野町宇野

名古屋市中區西日置町中田
七九

北河内郡星田村四八二

西成區西四條一丁目二一

神戸市兵庫區上澤通二丁目
一三ノ二八

住吉區平野馬場町五

神戸市葺合區布引町二丁目
一〇八、飯田方

東成區北生野町一丁目六三
三木方

北區芝田町六九、明石方

東淀川區十三南之町一丁目
三、篠内方

東區瓦町一丁目五、大阪中
央特許事務所

中河内郡唐津村三島

堺市寺地町東三丁一八

西淀川區加島町二二九

神戸市林田區駒ヶ林一ノ七

旭區天王田町一〇六

東成區生野田島町一四〇

平本 重雄君(昭八、大政) 兵庫縣川邊郡川西町小花
 野村 吉治君(昭八、專二法) 豊能郡麻田村麻田六九五
 宮崎 幸市君(昭八、專二經) 三島郡味舌村
 古川 正造君(昭八、專二經) 住吉區阿部野筋五丁目一〇
 堀毛 清君(昭八、專二經) 尼崎市開明町一丁目一〇、
 西牧方
 平尾 利雄君(昭八、專三經) 尼崎市潮江堂後一四
 中島 正男君(昭八、專三商) 天王寺區下寺町二丁目七
 太田 文次君(昭八、專二商) 大連市聖徳街四丁目七
 川崎 隼雄君(昭八、專三商) 旭區千林町一三三三
 中前 修吉君(昭八、專三商) 北區會根崎上二丁目五四
 中路 中君(昭八、專三商) 北區池田町八
 中川 多喜藏君(昭八、專二商) 住吉區遠里小野町八二
 西村 好道君(昭八、專二商) 三島郡千里村千里山二一四
 山脇方
 森 直行君(昭八、專二商) 泉南郡貝塚町南新町五一六
 西川 季夫君(昭八、專二法) 三重縣名賀郡神戶村比土五
 八〇
 高木 秀芳君(昭八、專二法) 住吉區旭町三丁目五四
 是恒 高保君(昭八、專二法) 西淀川區塚本町七五二
 浦上 肇君(昭九、大法) 住吉區阪南町中二丁目四
 向井 勇君(昭九、大法) 中華民國青島華陽路二號、
 和田方
 上田 廣藏君(昭九、專一法) 天王寺區上本町七ノ六七
 多田 米藏君(昭九、專一商) 南區瓦屋町一番丁六
 酒井 俊雄君(昭九、專一商) 岸和田市南上町一〇六九
 平工 英男君(昭九、專二法) 旭區赤川町一一八五ノ一

中筋 福三君(昭九、專二法) 此花區春日日出町五ノ二〇
 吉本 肇君(昭九、專二商) 京城府西界洞一三〇
 鳥羽 一夫君(昭九、專二商) 南河内郡藤井寺町岡西住宅
 三〇
 道井 新吾君(昭一〇、大法) 住吉區西住之江三ノ三二
 西岡敬之介君(昭一〇、大法) 神戸市兵庫區須佐野通三丁
 目一〇一、西脇方
 中川源八郎君(昭一〇、大經) 兵庫縣武庫郡精道村芦屋古
 新田六一二
 小堀 登君(昭一〇、專一商) 和歌山市鳴神町六八一
 忽那 純孝君(昭一〇、專二法) 愛媛縣温泉郡淺海村原
 加藤 常雄君(昭一〇、專二商) 静岡縣富士郡鷹岡町久澤
 花密 博君(昭一〇、專二商) 東成區深江町六六〇
 辻 精一君(昭一〇、專二商) 神戸市湊東區桶町一丁目
 一三六
 池田 信三君(昭一〇、專二法) 港區東田中町八丁目三三
 中津方
 青木 政雄君(昭一〇、專二法) 住吉區山ノ内町一五〇
 伊藤 常信君(昭一〇、專二商) 東淀川區中津南通二丁目
 二七
 小西 正夫君(昭一〇、專二商) 西成區粉濱中之町二丁目三

經 商 學 會

第五回例會を、五月二十六日(火)午後三時より、
 天六學會會議室にて開催、
 「本邦古代經濟市場に關する一考察」 瀧澤教授の
 報告があつた。
 (當日出席者) 正井、水谷、賀屋、磯部、河村宜、中
 村良、矢口、赤羽、西村勝、中川、森川、吉田、田
 邊信、豊田、藤川

俳 句 會 (専門部一)

五月十三日長柄國分寺で本春最初の句
 會を開催。批評後白文地先生が近代俳句
 について講演ありたり。
 彈力の五月が山が車窓に搖れ 風三樓
 春潮の窓の光れり事務をとる 柀、雨
 アーク燈ふるひ新樹は精を吐く 塔南
 青春はかくも悲しく若葉照る 若葉
 増えてゆく女よ茶寮春の夢 木石
 幼兒の唄なまめかし街の寺 桃園
 堀りかへす土にも初夏の句哉 希留男
 前裁の若葉の頃の心地かな 比加留
 峯々に獨り長閑な山籬 義人
 古寺や鳩の鳴く聲春の暮 指吸
 藤棚にほくえみて立つ蝶日傘 牧雪
 夫婦づれ若葉の山へハイキング 松永
 かの道に石けつてゐる女の子 湖水
 からたちの花咲きながら水流的 比呂志
 鳩の脚赤きと思ひミルクのむ 夜詩一
 五月二十七日午後三時長柄國分寺にて
 句會開催。
 書庫深しわが幾月の彩は見えず 白文地
 暮原にしむ春雨は餓鬼の糧 柀、雨
 熱帯魚藻をつゝかんと藻を恐れ 塔南
 夏木立弱き心に雲を見る 若葉
 病院の芥子眼にしみて赤く散る 夜詩一
 千鳥飛ぶ清流我の唱に暮れ 桃園
 戀知らず學童並び野邊を行く 木石
 静まりて市街は大きく吐息しぬ 湖村
 そよ風に疲れも忘る春の道 義人
 赤兒寝る乳母車あり青葉陰 指吸
 觀光路黒潮洗ふ岩上を 希留男
 サボテンの影砂を食み夏となる 比呂志

學生

皇陵崇敬會(千里山)

第四次第二回例會

去る五月三十一日、新入會員歡迎會を兼ね、河内磯長に例會を行ふ、午前八時四十分大鐵阿部野發、上ノ太子驛下車、道を南東にとり約半里、用明天皇河内磯長原陵に額づく、河村先生よりこの御陵に關してお話あり、我國の山陵の方墳を用ひられたる嚆矢とか、それより聖德太子御墓と叡福寺に詣で、更に敏達天皇河内磯長中尾陵を拜す。この御代は所謂經濟的困難期とて、陵の面積も初期に比し著るしく少さしとの由、雨あがりの粘土の山道を下りて、推古天皇陵へ、同陵は御遺言に依り敏達天皇皇子竹田皇子と合葬し奉る、第三十六代孝德天皇陵に至り拜して、豫定のコースを終り上ノ太子驛より乗車歸阪す。

それより心齋橋明治屋三階に於て、新入會員歡迎會を行ふ、先づ一同紀念寫眞を撮り、食事後大に會の發展史を語り、例會に行くについての注意並に過去の失敗談等を話し、午後四時半散會

(出席者) 河村信一教授、先輩原氏、端山、松田、北田、石田、奥(新入會員) 尾崎、安藤、澤田、角高

基督教青年會(千里山)

本會日誌抜萃を報告して敬愛する諸兄の御後援に感謝したいと思ひます。

一月一日 本會々報新年號發行(毎學期毎)

本會々章正式制定(Spirit, Mind, Body)を表象する世界青年會制定三角型の Kansai Univ. Y.M.C.A. の文字を配したるところの國際的に大學 Y.M.C.A. を示す優美有意義な「銀バツヂ」である。

一月三日 日本基督教年鑑登錄請求、五十周年を迎へたる關西大學の名聲と共に本學青年會を全國に紹介。

一月七日 O.B.俱樂部合同親睦會開催意義な新年會なりき、因みに千里山青年會幹事は昨年来北教會にて本年度事業計畫を協議せり。

一月十三日 三學期開講と共に千里山圖書館新聞閱覽所に本會寄贈により「神ノ國新聞」備付、

一月十八日 於土佐堀青年會館大阪學生聯盟協議會開催、本年度連絡協議本年度當番校本學、大阪商大、齒專本年より計畫されて居る各校聯合聖書研究會、大學交歓研究發表會等は新しい試みとして注目されて居る。

一月二十日 和歌山高商青年會と「ミ

ツシヨナリーメッセージ」交換。

二月十六日 本學、聯盟主催のもとに青年會館に於て世界學生聯盟祈禱日(萬國同一日)を守る。第一部商大、

第二部本學司會有意義なりき、猶ほ當事の模様は機關紙を通じて廣く紹介する。

二月二十日 關西總會準備委員會開催 京大教授山本理學博士、三浦總主事河邊關西學院教授、當番校出席、本學より幹事三名派遣、因みに四月十八、九兩日有馬に於て開催と決定

新入生歡迎會紀行

(専門部一部)

爽やかな風薫る五月十五日我が専門部一部の恒例の行事である新入生歡迎會を、新緑のすがすがしい氣分漂る和歌山市に舉行する事になった。八時半

阪和阿倍野驛に集合、貸切電車を増發九時半和歌山着、和歌山公會堂に入り浦本委員長の挨拶、武田専門部主事の挨拶があり、音楽部の演奏、萬歳、浪花節等の興味深き余興あり、中村教授

の和歌山の由来に關しての漫談として和やかに歌はうと云ふ提唱に全く同感新緑の風薫る和歌山で新入生を迎へての在校生は心を一にして交歡した。かくして交歡する所に、そこにお互ひの

三月十四日 本會十週年紀念として宗

教文獻英原書、邦譯各一冊専門部圖書館に寄贈、

其他定期集會、定例代表派遣あり。新學年に八名士を招聘して學内特別講演會が開かれる豫定。亦先に報道した世界學生基督教聯盟主催、太平洋沿岸學生青年會々議は八月廿三日より北米合衆國「カルフォルニア ミスル・カレッツ」に於て開催、同盟に於て代表を關西部會よりも詮衡中。希望に燃ゆる若き新入生諸兄よ、兄等の入會を歓迎す。

間の親睦感の情が生まれやがてグレート關大建設への力強き原動力となつてお互にカッチリ團結しあつて行かうと云ふ精神を昂揚する上に非常に役立つものであると思ふ。

盛會裏に終了するに際しても親しく交歡してお互に青春の意氣と熱と感激に燃え立つて校歌を合唱する時そこに力強い血潮の高鳴りを感じ、傳統を誇る關大スピリットが養成されるのだと感じた。

二時市電で新和歌浦に至り附近の風光名勝を探勝し此處でこの意義深き新入生歡迎會を解散、學生諸君は陽春の一日を清遊すべく思ひ／＼に自由行動をとり、散つて行くのであつた。

(谷崎報)

關大スポーツ

◇ホッケー部

五月十日、於神戸商大
 關大 3—1 英國東洋艦隊
 五月二十四日、於神戸商大
 關大 1—2 2—0 神戸商大
全國高専ホッケー大會優勝

◇陸上部

五月三十一日 於名古屋鶴舞公園
 關大豫科 2 (1—0) 1 山口高商
 六月七日 於京都農大グラウンド
 關大 9 (4—0) 0 三高
 關大豫科對同大豫科
 五月六日 於大阪市立運動場
 關大豫科 31—1 同大豫科
オリンピック最終豫選
 五月二十三日、二十四日 於神宮競技場

五月二十三日、二十四日 於神宮競技場

百米決勝
 4. 谷口(關大) 10秒8

槍投決勝
 1. 長尾(關大OB) 63米40

中障礙決勝
 1. 福田(關大) 55秒4

三段跳決勝
 1. 戸上(關大) 15米27

二百米決勝
 3. 大島(關大OB) 14米96

二百米決勝
 2. 谷口(關大) 22秒3

走高跳決勝
 4. 近藤(關大) 1米85

近藤(關大) 1米85

ベルリンオリンピックへの日本代表選手として本學側より左記選手決定す。

(短距離) 谷口陸生君、(障礙) 福田時雄君、(跳躍) 大島鎌吉君、戸上研之君 (投擲) 長尾三郎君

關西陸上競技選手權大會

砲丸投決勝 5. 戸上 10米90

走中跳決勝 1. 戸上 6米85

百米決勝
 1. 小椋 3. 福田、前田
 2. 谷口 10秒7
 3. 川手 4. 小椋

走高跳決勝
 1. 近藤 1米75A
 2. 松岡 6. 木本

千五百米決勝
 1. 木下 4分23秒
 2. 小西

四百米決勝
 4. 中牟田
 四百米繼走決勝 1. 關大チーム

45秒2 (小椋、福田、戸上、谷口)

一萬米決勝
 1. 木下 34分40秒6
 5. 渡邊

高障礙決勝
 2. 福田 15秒8
 4. 小椋

中障礙決勝
 1. 福田 59秒
 3. 中牟田 6. 小椋

八百米決勝
 1. 小西 2分3秒5
 4. 門田

二百米決勝
 1. 谷口 22秒2
 4. 川手

千六百米繼走決勝
 1. 關大チーム 3分31秒6
 (中牟田、小西、谷口、福田)

棒高跳決勝
 1. 山崎 3米80

三段跳決勝
 1. 戸上 15米67
 2. 福田 5. 大室

槍投決勝
 6. 戸上

圓盤投決勝
 5. 權代

總得點(31)にて第一部に優勝

1' 關大 2. 京大 3. 關學大
 4. 和商高 5. 立命大 6. 同大

對法政大學定期戰

六月六日、於甲子園南運動場

關大 0—1 法政

◇庭球部

大毎主催第十五回選手權大會

自五月一日 於濱寺コート

藤井(關) 6—1 玉井(慶)

倉光(關) 6—0 桂(和商)

倉光(關) 6—4 横山(學)

藤井(關) 6—0 上島(大商)

倉光(關) 6—1 岡田(慶)

藤井(關) 6—4 長谷(專)

倉光(關) 6—1 川(大)

藤井(關) 6—0 山川(慶)

倉光(關) 6—1 新谷(神商)

藤井(關) 6—2 諸戸(大)

倉光(關) 6—2 高橋(東)

ダブルス準決勝
 藤井(關) 9—11 川村(關)

倉光(關) 9—6 生島(學)

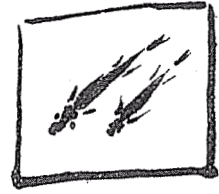
シングルス準決勝
 三浦(早) 6—2 倉光(關)

ダブルス決勝(五月五日)
 上原(關) 8—6 藤井(關)

堀越(OB) 6—4 倉光(關)

滿洲事情

校 友
滿洲國陸軍軍需官 廣 瀨 義 雄



軍 閥

支那が文字の國であり、思想の王國であることは、現在の支那についても否定すべきではない。以下「滿洲國」が中華民族とご託す代りに、特別な場合の外は、支那と云ふ用語を使用することにいたします。何れかの一を意味し、それを包括した場合でもそうしたいと思ひますから、適宜に其何を指示するものなるかを御判定願ひます。但し別意あるに非ずして煩わしさを避けんが爲であります。蔣介石が嘗或時の降伏を勧告する通知に「玉石俱に燒かん」とやつてのけた文句を内地の某大新聞が批評して巧みな、そして効果的な言葉だと、いたく感歎激賞してゐたのを覚えてゐますが、此國に居る歲月が追々増加するに連れて矢張り同様の感を深くするのであります。支那人の最近の言葉に「國空、民窮、官家富」と謂ふのがあります。決して蔣介石のその様な美句ではありませんが、それだけ此言葉の使はれてゐる範圍が限りなく廣い、現在の支那の何處に於ても齊しく通用する言葉である。乞食だつて知つてゐる言葉であります。恐らく近代の支那軍閥や政治に對する庶民百姓の怨嗟であり、皮肉であります。

蔣介石や張學良其他の巨頭が莫大なる蓄財を外國銀行に設定してゐると傳へらるる如く、支那の軍閥、政

商、政治家等、そのものは個人として決して困つて居るのではなく、現在の資本經濟社會を乗り通して行く爲めに國家と謂ふものが彼等とは恰も營利店舗なのだから其國民だつて相互に、自己以外の他人と共同して協調利益とかと謂つたものを考慮してゐる暇がなく、國家とか、社會とかと云つた感念は自然と稀薄なものになつて行かざるを得ないのであります。

莊子に、盜賊とは物を盗んだものであるが、王侯とは國を盗んだものだと言はれてゐる一節のあるのを想起するのであります。これも全く穿つた文句だと感心させらるる外はありません。茲で、從來の軍閥（匪賊、馬賊）なるものに就いて少し御紹介することにしてやう。戒嚴令下に於ける行政司法の權限は、其獨立性を失つて、軍部と連繫せざるを得ない様になる如く、國家の政治が大半でなければ、軍隊の力が強化されることは必然であらう。

近代支那の如く、久しきに亘つて其秩序を失ふ時、各處に英雄が烽起蟠居する。彼等は其力に應じて地域と人民を獲得せんとする。そして各英雄は互に天下國家を掌中に收めんとするのである、然し乍ら「眠れる獅子」と其昔恐れられたるが如く、支那の地域は實に山あり河あり、廣漠廣大である。各地に點在する自然

の資源は、地域的英雄を保護し、又養育する。假令へば、大國が、其殖民政策を實施するに當つては、能ふ限りの國力を傾倒する筈であるに不拘、幾多の蹉跎に達し勝ちである如く支那一國の制覇統治にも容易ならざるもののある事は當然である。國家の政治主體と連繫を有する大軍閥には國家から、一定の豫算が令達され、又其軍閥自身も國家の軍隊と呼稱してゐるのであるが、之を完全な軍隊と比較する時、自ら不満足な縁邊さを發見する。其差異の主要なるものに、服従關係や軍規問題を擧げることが出来る。勿論日本の俠客と云つた仲間、見られた様な仁義的感念に似たものが、彼等の間にもあつて、時にはホロリとさせられる様な事實を見聞する事もあるが、まあそれ等は、極く小さく限られた異例に屬するものである。軍隊と稱する軍閥は申すに不及、其他の軍閥匪團にも上から下へ、大小の頭目が居つて、各自が其權勢と地位とに従つて、軍隊豫算をかなり亂暴に使用する權利を持つてゐる。勿論經理的規定や、法規があることではあるが、それ等による證明や決算の報告は、實際の使用とはあまりにもかけ離れてゐる虚偽的な書類に過ぎない軍隊以外の匪團等に於ても勿論大同小異であつて、こうした慣習には變りがない。命を擲けて戰場に馳騁する多數の兵卒には給養は申すに不及、俸給の支給さへ滞り勝ちになる、時には支給されてゐない。現に、滿洲事變以前は、張學良の東北軍に於ては、全軍將兵俸給の受領額は、俸給額の八割であつて、其二割の控除理由は表面上立派なものであつたとしても、實際それが何の爲めに費やされてゐたかは全く疑問であつたのである。東北軍の機構には、滿洲に於ける軍隊として、

軍法處もあれば、經理を取扱ふ軍需官も居つたことは勿論であるのだが。此矛盾に對して自己の正當なる權利を主張する方法がない。此彈壓を何れに何方轉換せざるを得なくなる。彼等は自分の携帶する武器兵力を、百姓商人に向ける。そして何時迄経つても頭の上らないのが羊の如く、蠶の如く矛盾なる國民である。遂に國民は正義觀も氣力も衰つて、樹皮、草根を求めて山河を彷徨する。天下に政治もなく、警察もない、只國民は「没法子」^{イイガイ}だとしか云ひ得ない。食へなくなり、着れなくなつたものが、軍隊の募兵に應じ、或は適當な匪團に身を投じる。唯、食はんが爲めに、活きんが爲めに、弓矢を執るのである。一般の國民は、軍隊や匪團を呼んで、「好人不當兵、好鐵不捨釘」とに怨嗟の聲を放つ。釘になるのは鐵の中の屑である如く、兵になる者は人間の屑だと云ふ意味である。私財を蓄へんが爲の官長頭目であり、食はんが爲の士兵なんだから、下から上へ地位の取引争奪が法規や慣習を無視して行はれるのだから上部の地位や階級は私財を蓄へん爲の容易なる方法であるからである。能力と品性を伴はない人事行政なんだから其間に服従關係や軍規關係の期待出来よう筈はない。國家の軍隊と自任するものに於てさへ如斯幾多の缺陷を存してゐる。

尙一方、此等匪賊團體相互に於て、戦争や闘争以外の方法を以て、恰も外交交渉に似た駆引によつて、勢力範圍である所謂地盤關係を決定することもある。そして此交渉は實に巧妙を極めてゐる。滿洲國は此等の複雑なる状態の許に新しく呱呱の聲を擧げた。そして今後幾多の困難を存しつゝも建國以來、舊來の陋習を征服し來つて、只管らに進歩の過程を上向に辿つて

ゐる。が、今後の中國はどうなるのであらう。中國を中心とする國際關係。地球儀を机上に繰つて此地を按ずるも、心ある青年の無駄には期すまい。勿論國は亂れてゐるが、山河尙豊富なる資源に充滿してゐる。そして此地の國民は、恐らく文明國の觀念病者には想像もつかない程、窄取彈壓を享けた者のみの持つ、實に

國文學會京都御所拜觀の記

文學專攻者にとつて過去は常に懐しい。古典によつて與へられた智識は、それが嘗て作られ讀まれた還境を探究する事を要求する。其の意味に於て、望と愛とを表現してゐる王朝趣味を滿喫するために、京都御所拜觀は大きい收穫であつたと云へる。

五月廿四日。新町、飯田、江馬、田中諸先生と、國文學關係以外の先生方六人、卒業生在校生二十人の大勢で出かけた。午前十時卅分、先づ二條離宮から、江馬先生の御説明を聞きつゝ拜觀して行く。此所は徳川家康公の建立、慶長八年に竣工したものである。唐門遠侍の間、式臺の間、大廣間、黒書院、白書院、牡丹の間、槍の間と過ぎて行くにつれて、豪華な桃山文化の影をしのぶ。大名は其の威勢をかまひして示さねばならなかつたのか。恐らく三百年前には金色燦然として浴中に誇つてゐたであらう。

午後、御所の拜觀に移る。桃山文化の表面的な豪華さに較べて、此所は余りにも崇高である。約一千年前、一切の文物は宮廷を中心として完成した。忠君愛國と云ふ國民道德の根元と、祖先崇拜の觀念が此所を中心として圍繞してゐた。紫宸殿を拜觀する、此所は宮中の大禮を行はれた所である。承明門、日華門、月華門

見上げた諦め思想を持つてゐる。——(勿論正義の黎明を渴仰してはゐるが)自國の歴史を懐しく語つても居り、又過古の聖道も尙廢れてはゐない。朔風に駒を鞭打つて千里の野を行く時、若人の血潮が、雄々しく高鳴るのを覚えるのである。(未完)

長樂門、永安門、左掖門、左掖門に圍まれた南庭には一面に白砂が敷かれ、我々は思はず最敬禮をする。宜陽殿、龜下の座、陣の座、春與殿から小御所に至る。此所は維新の御時に於ける、小御所會議のあつた歴史の間である。清涼殿を拜觀する。天皇の御常の御殿であつた。我々は簀子の前から、平敷御座、石灰壇、御帳、畫御座、荒海障子と眼を移して行く。弘徽殿上御局、菰戸、瀧口と江馬先生の御説明は盡きない。東庭を通じて殿上間に出る。御椅子、台盤、櫛形窓、源氏や枕草子などが傳へてゐる雰囲気^{アトモスフィア}が我々を完全に王朝の人とした。

引續いて仙洞御所を拜觀する。此所には立派な御庭が残つてゐる。築山と池とを通過して我々は一巡した。静寂其ものである。自然の中に包まれる時、やはり人間は悠々とした落着を取展すのであらう。云ひ様もなく尊い。

今日の行程が終つた。ロンドン塔を見た文豪には、幽鬱な幻滅が残つたが、我々には崇高と甜美の懐かしい余韻が続いた。總勢三十人は建禮門の前に整列して、記念撮影をした。午後三時卅分である。現在の御所は王朝時代の位置ではないであらうが、朱雀大路を揺れて行く牛車と、其のはるか南方に羅生門の影が見える様な氣がした。

校友名簿並に學報に就いて

一、校友會員名簿は基金制（一時拂金參圓也）に依つて發行して居ります。

一、學報は年額壹圓であります。校友諸賢の御購讀を切望致します。

昭和十一年六月 關西大學學報局

申込書

一金圓也

學報維持費（自昭和至昭和）年 月 日
校友會名簿基金

No. 右金額相添へ申込候也

昭和 年 月 日

氏名

關西大學學報局御中

明治 昭和

年 學部 專門部

科卒業

一、勤務先
一、現住所

編輯餘録

▽六月號と云ふにいま校了の日は二十三日、大へん遅れてしまつた。それに第一三九號は式典記念號として發行することになつてゐるのにこれも未だ刊行の運びになつてゐない、申譯を云ふ様であるが、記念論文集の刊行や、式典の後始末についで研究論集第五號の編輯もあり、記念號寫眞の蒐集並に編輯に手間取つてゐた發行について問合せや催促には一々返事は差上げた筈であります。何かと申譯がない。今後はかゝることのないやうに期日を厳守する様に心掛けます。

▽五十年史について問ひ合せの向がまゝあります。が餘部少々はありますので、費二圓で頒つことになりました。希望の方は天六學會會計課宛申込まれたい。新人を迎へての關大スポーツの活躍は一段と目醒ましい、今年度陸上部の陣容充實とその実績は、やがて全日本學生覇權獲得への一歩であり、野球部が依然として春期關西六大學リーグの王座を保持して夏期ハワイ遠征を決行し、ホッケー部は最近破竹の勢を以て、關西の強剛を總馱めとし、豫科は過般の高専大會に優勝、籠球部またその進境著るしく東部の雄慶大を破つた事は偉とするに足る。

▽校友富山忠三氏寄稿の「會計史話」は次號に掲載の豫定であります。

千里山俳壇

當委雜吟 募集

當分句數制限せずなるべく多きを望む

封皮には必ず「千里山俳句」と朱記のこと

送稿先

大阪市東淀川區十三東ノ町三丁目 牡丹書房 有田朝冷

大正十一年六月十五日創刊
昭和十一年六月十五日印刷

不許複製
編輯人 神屋敷 民藏
發行所 關西大學學報局
大阪府東淀川區長柄中道二丁目十二番地

天六學舍 關西大學
電話 海川 一〇三九
標榜六版 二六七五番

千里山學舍 關西大學
大阪府市外千里山
電話 吹田 一〇三三

背 光

號 輯 特 念 記 年 周 十 五 立 創 學 大 西 關

頁〇七一版倍六四
錢〇五價定
錢六料送

編 部 聞 新 山 會 里 友 千 學 大 西 關

刊 新

創立五十周年を憶ふ 關西大學の思ひ出 大正十五年頃の事 三十六年生 名簿の端から 在學時代の思ひ出 五十周年雜感	大學論 法的文化の擁護 日本精神の爲に 五十年前の貨幣問題 復活祭の頃 明治時代のマルサス人口論 李朝韓人の見た日本 會計學的領域の擴大 獨逸經濟學に於ける 正確の方針の危機 銀行預金の一作用 シヤル・ゴソリダリズム 理論受容に對する學者圈 時代の風潮と警察 概念	身元に関する古判例 強制執行と無産者 ロンゾ近時の刑事學 アイヒと獨逸法制史 ホルンと商法の改正案 識化と商法的の跋 現代劇への要望 ダンテ禮讚(譯詩) 陽明學者西郷南州 富永謙齋先生傳續考 展望に生きる者と問題 贈物の交換 冬・春・山 家庭と不合理の合理化 社會に能動者と受動者 於ける能動者と受動者 大阪と五代友厚 大 阪 昔 話 漢 詩・南 畫 漢 宗敎と統一國家 其角と伊勢・源氏 文部省と文藝 海 峽 の 灯	小泉 幸治 山 村 喬 野 村 次 夫 小笠原語咲 志野覺治郎 玉置轉留男 鈴木 武夫 水谷 揆一 神戶 正雄 作田 莊一 加古祐次郎 牧 健二 正井 敬次 金田 近二 堀 經夫 田邊信太郎 陶山誠太郎 赤羽豊治郎 森川 太郎 加藤金次郎 卯一 中谷 敬壽	西村 信雄 吉川大二郎 佐伯 千仞 宮下 孝吉 鳥賀陽然其 豐岡佐一郎 村上 喜貞 高瀬武次郎 石濱純太郎 末川 博 福田敬太郎 村田數之亮 村本 福松 丸谷 喜市 菅野和太郎 大岩 誠 藤澤 黃坡 渡邊 花仙 篠田 栗夫 田邊 清市 飯田 正一 坪内 士行 高田 保馬
--	--	---	---	---

前學大央中臺河駿京東 社 會 式 株 道新田梅區北阪大
番八三二一八京東替振 院 書 同 大 番二七九一三阪大替振
番八二二二田神話電 番番番 番三五五 番一六七 番一三五 北話電

關西大學創立五十年記念論文集

菊判五一八頁
定價金參圓
送料二十一錢

論 文 要 目

常設國際司法裁判所に就いて……………	法學博士	織田	萬
日本民法法典編纂の法理觀……………	法學博士	仁保	松
社會科學の理論的限界性……………	教授	岩崎	一
日滿兩國の構造及聯關……………	教授	大田	一
天皇神聖不可侵論……………	教授	吉田	一
商概念の史的發展に就て……………	教授	野村	次
北米學派の利子學說……………	文學博士	高田	保
配給組織の基礎的諸問題……………	教授	加藤	金次郎
大都市の生成と交通機關……………	教授	河村	宜介
資本蓄積の自動性と貨幣の主觀的價值……………	教授	正井	敬次
重商主義經濟學に觀る國民性……………	教授	古川	武
リイフマンの心理主義經濟學……………	教授	赤羽	豐治郎
銀行流動性の機構……………	教授	森川	太郎
其角俳諧覺書……………	教授	飯田	正一郎
批判哲學に於ける自由の問題……………	教授	片山	正
Keatsの天才に就ての一考察……………	教授	內多	精
大正時代思想史概說……………	教授	新町	德之

發行所

大阪市東淀川區
長柄中通二丁目

關西大學

賣捌所

大

同

書院

大阪市北區梅田新道
振替大阪三一九七二番

關西大學 教授 加藤金次郎著

最新刊

商業會計綱要

菊判 上製四三〇頁
定價 參圓參拾錢
送料 二十二錢

最近に於ける配給組織の變革は顯著なるものがあり、従つて益複雑となり大規模なるものとなりつゝある各種形態の商業にとつて、特殊なる會社組織が必要とせらるゝに至るは明らかである。故に、單に商品賣買に關する取引を對象とせる一般的なる商業簿記以外に、此の如き複雑なる且大規模組織の商業に適應すべき、特殊なる會計を對象とせる研究の必要が必然的に生じて來る。例へば近世資本主義の一產物たる大規模小賣商即百貨店、連鎖店等に於ける會計の研究が其の一例である。

本書は如上の要望に副ふべき内容を具へ、以て舊き商業簿記書の規範を脱し、所謂「商業會計」に關する研究として新生面を開拓せるものである。併し、複式簿記法の基本的原則及び商業簿記に關する一般的理解も亦、其の基礎として必要なるものであるから、本書に於ては此の兩者をも先以て論じ、斯の種の簿記、會計の研究に關して統一的に體系付けようとしてゐる。

尙末尾に附したる最近四ヶ年間の簿記入學試験問題集は、受験者にとつて又好箇の參考となるべきものであらう。

關西大學 教授 中村良之助著

國際の經濟競合地帯に關する研究

三〇判 上製

定價 貳圓五拾錢
送料 二十一錢

關西大學 教授 西村勝太郎著

企業財務表分析論

三〇判 上製

定價 貳圓五拾錢
送料 二十一錢

株式會社

大 同 書 院

東京駿河臺中央大學前

振替 東京 一八二一三八番
電話 神田 二二二八番

大阪北區梅田新道

振替 大阪 一三九七番
電話 北區 一五六七番